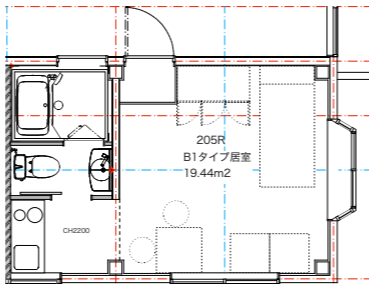


●コレクティブハウス大泉学園  
1K 19.44㎡+コモンスペース  
家賃 57,000円/月

所在地：練馬区大泉学園町8丁目  
最寄駅：西武池袋線大泉学園駅よりバス10分、  
バス停より徒歩5～8分  
東武東上線成増駅よりバス25分、  
バス停より徒歩5～8分  
東武東上線と光市駅より自転車20分  
※東武東上線は、有楽町線、副都心線乗り入れ  
居住人数：15名程度  
共益費など：居住者組合で決めて運営、居住者で分担



静かな住宅街の中にあり、角部屋で日当たりも良く、住みやすいお部屋です。



スケジュール

●住みたい方オリエンテーション & 居住相談

コレクティブハウスに住みたい  
暮らしづくりに興味のある方  
毎週木曜日 19:00～21:00  
第2、第4土曜日 10:00～12:00

参加費：無料  
会場：目白CHCオフィス  
※事前申込制です。  
※日程を変更する場合があります。  
※日程が合わない方は個別に対応しますのでお問い合わせください。

●コレクティブハウジング入門

コレクティブハウジングのことを  
お知りになりたい方

8月7日(火) 13:30～15:00  
8月16日(木) 19:00～20:30  
8月24日(金) 19:00～20:30  
9月9日(日) 10:00～12:30  
9月18日(火) 13:30～15:00  
9月28日(金) 19:00～20:30  
10月13日(土) 10:00～12:30  
10月16日(火) 13:30～15:00  
10月26日(金) 19:00～20:30

参加費：3,000円  
会場：目白CHCオフィス

●コレクティブハウス見学会

実際のハウスを見てみたい方

スガモフラット  
8月4日(土) 13:00～14:30  
10月14日(土) 13:00～14:30  
コレクティブハウス聖蹟  
8月25日(土) 13:00～15:00  
10月27日(土) 13:00～15:00  
コレクティブハウス大泉学園  
9月(日程調整中)

参加費：4,000円  
会場：各ハウス

居住者のブログ

実際の暮らしの様子は、コチラ  
スガモフラット  
<http://blog.goo.ne.jp/sugamos2014/>  
コレクティブハウス聖蹟  
<http://chcseiseki.blog60.fc2.com/>  
コレクティブハウス大泉学園  
[http://blog.livedoor.jp/ch4\\_oizumi/](http://blog.livedoor.jp/ch4_oizumi/)

投稿コーナー

★マイブーム紹介★  
武さんの手拭いコレクション  
右は「前途羊羊」  
左は「蛇足・蛇口・蛇腹」

投稿者 O さん



お知らせ

目白オフィス 毎週木曜午後は OPEN DAY

会員のみなさんにお気軽にお越しいただけるよう、毎週木曜午後はオフィスオープンデーとしています。事務局メンバーがおりますので、お話をしながら、関連書籍や資料などもご覧いただけます。目白にお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

※メンバーが不在の場合もありますので、事前に事務局までご一報ください。  
TEL: 03-5906-5340 / E-mail: info@chc.or.jp

●Facebook ページ公開中

右のQRコードからアクセスしてください。



「これこれ新聞」編集部員募集!

これこれ新聞編集部では一緒に編集に携わってくださる方、配架に協力して下さる方を募集中! ご連絡お待ちしております。

【編集後記】

ワールドサッカー終了しましたね～ テレビ観戦の次の日は寝不足だったのでは……。スポーツの世界でも、いろいろ不祥事があつたりしましたが、せめて、スポーツは健全であってほしいものです。

さて、前回に引き続き皆様の投稿を募集しております。お題は「マイベストおやじギャグ」です。また、暮らしにまつわる川柳も募集中! ペンネームを添えて、collecollego@gmail.com まで。



隔月刊 CHC これこれ新聞

【リレー連載】コレクティブハウスって何?

『コミュニティ形成のための他者理解と合意形成のエクササイズ (荻宿俊文)』  
この言葉を知った時、これはコレクティブハウジングにピッタリだと感じました。実はこれ、「ワークショップ」の定義(前提条件)なのですが、大切なことがこの短い言葉にいろいろと含まれています。(居住者H)

総会報告

2018年度総会にて  
新たな社会的住宅を提案

2018年6月17日(日)、CHCの総会が開催され、その総会終了後に、CHCから参加者へ「新たな社会住宅」の提案がなされました。これは2017年度の事業の中で、国交省からの助成事業として「先駆的空き家活用」に関する調査と論考を行い(<http://social-house.net/>)、その結果を踏まえて、提起されたものです。「新たな社会住宅」について、話を聞いた参加者の方から、コメントをいただきました。

※ ※

<総会に出席して思ったこと>

コレクティブハウスを知って、いつか私も…という思いを抱きつつ今は会費を払うだけの会員になって久しい。これまでCHCが関わり作ってきたコレクティブハウスは、正直なところ私には高嶺の花です。

共同保育の保母や、中小企業のほぼ個人事業と思しき職場で働いてきた私は、老後を年金だけでは暮らせない低所得高齢者です。今年の総会で提案された「新たな社会的住宅」の提案は私のような高齢者でも暮らし方が選択でき、最後まで少しは人の役にも立ちながら生活できる可能性がある気がして、素直にうれしく思えるものでした。

私の住まいの近隣にも空き家はあり、市内では整地された売



地を頻繁に見ます。行政が公的援助をしながらでも市民と共に地域の問題に取り組む姿勢があれば、セーフ

ティネット形成に寄与する住宅を作ることでもでき、その場所から地域を変える試みを広げること可能。そこは、各地域の市民の力を大いに活用すべきです。そして市民の背中を押しながら、市民の側に立って一緒に考え、歩んでくれるNPOとして、CHCがいてくれたらどんなに心強いと思います。

生活の場所だからお互いの価値観を尊重し合うことが必要で、他人同士だから想像力も距離の取り方もそれなりの努力・協力が必要なコレクティブハウスの生活を、面倒くさいとみるか、良いとするかは人それぞれですが、私はやっぱりそんな生活がしたい!が望みです。(会員K)



タウンコレクティブみなこい(南小岩)  
地域交流勉強会  
「医療費節約Cafe」

2018年5月20日(日)午後6時から、タウンコレクティブ南小岩の大家さんである市村のぼる氏を講師に迎えて、地域交流勉強会「医療費節約Cafe」が開催されました。

右コラムは、市村さんのメッセージです。医療関係のお仕事をしていらっしゃる市村さんのお話は、有意義で考えさせられる内容でした。「適切で質の高い医療を受け、医療費の浪費を避けるためには、患者も賢くならなければいけないのだな!」と強く感じました。

※「医療費節約Cafe」は参加無料の勉強会です。  
市村さんのお話を聞きたい方は、CHC社にご連絡ください。



「医療費節約Cafe」は「4020運動」の一環で行っており、年間40兆円を超える国民医療費を半分にするのを目的としています。

今のまま医療費が増え続けると、税金、保険料、窓口負担も増え、日本の借金も膨れ上がり、将来世代に影響を及ぼします。

高齢化が進んでも、日々の健康づくりや医療と賢く関わることで、QOL(生活の質)を高めることができます。具体的には、運動、栄養、歯と口の健康、心の健康、節酒・禁煙、健診などが有効です。

また、けが・病気の時は、病院・医師選び、問診・検査・入院・手術・クスリなど、患者主体の適正医療が必要です。病気は患者本人の身体的・精神的・経済的負担だけでなく、家族・会社・社会にもしわ寄せを及ぼします。皆で力を合わせ、「4020運動」を進めていきましょう。(市村のぼる)

from U.K. **Marmalade Lane, Cambridge, U.K.**  
<http://www.marmaladelane.co.uk/>



北欧発祥のコレクティブハウス。英米では「Cohousing」として普及しつつあります。後発ながら、リーマンショック以降に発足したコミュニティが多く、世界で一番活気があるとも言えます。そんな英国ケンブリッジでのCohousingが具現化した第1弾がマーマレードレーン (Marmalade Lane) で、2018年6月現在、建物もだいぶでき上がってまいりました。9月の入居を予定しているそうです。

このコミュニティは現在、8組の家族が参加していて、8歳未満の子供が14人、仕事をしている単身者7組、現役引退を含む10組の様々な世代のカップルと、4組の年配単身者がいるそうです。その国籍は11か国にもおよぶとか。



8歳のサミーと6歳のピッピー、子ども2人とともに入居予定のミランダは、「コレクティブハウスなんて知らなかったけど、コミュニティのある暮らしをずっと探してたの。引っ越すことを二人とも楽しみにしているわ」と、入居を心待ちにしている様子です。

後発とは言え、英国で活動しているコミュニティは21もあるそう。日本もコレからですね! (編集部O)



## “暮らす”にまつわる公開雑談 ヒゲプロさんの巻

**阿部**：これこれ新聞のキャラクター「これこれ君」を作って頂いて、本当にありがとうございます。早速、新聞で大活躍です。

**梶浦**：ありがとうございます。どんどん、ご活用ください。

**阿部**：今日は、これこれ君を作ってくれた梶浦さんとはどんな方か、CHC理事の狩野さんとの雑談で浮き彫りにしていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

**梶浦**：よろしく願います。

**阿部**：梶浦さんの会社ヒゲプロのホームページを見せていただきました。いろいろな方面で広くお仕事されていますが、その中で気になるのは、ツクモルという活動です。豊島区との活動が多いようですが、豊島区とは、どのようなつながりがあるんですか？

**梶浦**：ウチのスタッフが、熊本地震の後に、クリエイターとして、物づくりで防災に関わるというプロジェクトをやりたいと、そこにいるメガネの彼女（来馬涼子さん）が提案したんです。僕自身は、地域活動とか公益活動とかあまり興味はなかったんですけど、ちょっと面白いこと言っているなあと思って。たまたま、知り合いだった豊島区の女性にやさしいまちづくり担当課長（現「わたしらしく、暮らせるまち。」推進室長）に話を持っていったんです。そうしたら、僕より全然やる気になってくれて、一緒にやりましょう!!みたいな。それで、豊島区の活動が始まったんですよね。

**阿部**：そうか、じゃあ。始まりは、梶浦さんじゃなかったんですか？

### 自分たちで作る

**梶浦**：そうなんです。地域活動とかボランティアとか、できるかな？という感じだったんですが、そういう方と出会ったり、一緒に活動してみると、だいぶ、自分の考えていたのと違うなと思ったんです。意外とデザインと親和性があるなと。それもあって、ここ最近、改築した小公園のトイレをデコレーションしたり、デパートの優先エレベーターの内部を装飾したりというパブリックアートの活動をしています。主として豊島区と協同でやっているんですが、そこで、公園のトイレは誰のためのものなのかって考えると、公園を使ってくれる地域の人達のものでよね。ならば、ゆかりのある人達に手伝ってもらったら



## さよなら上北沢 おわかれ会ワークショップ

7月15日(日) 午後はタウンコレクティブ上北沢(上北沢 commons)の「さよならイベント」でした。TC上北沢は、2016年4月にスタートした比較的新しいプロジェクトでしたが、オーナーの急逝により惜しまれつつ事業終了となりました。イベントには元居住者代表Oさんと故オーナーの娘であるKさんのほか、 commonsスペースやキッチンを定期的に利用していた世田谷区の学習支援団体や助産師会の方々が出席。さらにはTC南小岩やTC江古田に居住中のタウンコレクティブ仲間たちや、TC江古田のオーナーも参加して、「タウンコレクティブの良いところと課題」について語り合いました。

このハウスにオープンから約2年住んでいた元居住者のO山さ

んは「よかったと思うのは、単なる小さなシェアハウスではなかったこと。居住者4人という規模だとコミュニティとして煮詰まってしまうが、そうはならなかった。特に町会に入って、町会の緑化部会に指導されながら地域の上北沢公園の緑の管理まで任せられ、地域との交流ができ、知り合いが広がった」と思い出を語ってくれました。(編集部I)



広びろとした commonsスペースで最後のお茶会&おしゃべり会

今回はこれこれ君を作った(有)ヒゲプロの梶浦さん、CHC理事の狩野さん、そして、編集部・阿部の鼎談を3回に分けてお送りいたします。お楽しみください。(以下、敬称略)

どうかと思ったわけです。で、保育園で絵を描いてもらって、それをウチのスタッフが編集して、再構成してラッピングする「トイレラッピング」を考えついたんです。

**狩野**：なるほど。ラッピングだと直接、みんながそこに集まって描かなくても良いし、参加のハードルが低い良さがありますね。

**梶浦**：そこはデジタルというか、新しい技術を使おうと・・・ラッピングが完成したとき、お披露目をやったりして、豊島区長さんがいらしてくださって嬉しかったです。出来不出来の問題は当然あると思いますけれども、やっぱり自分で作ったものは愛着が湧くんですよ。そんなふう活動していくうちに、だんだん楽しくなってきちゃったんですよ。来年もやりますよ。

そうやって豊島区の活動をしている中で、ある日、物件があるよって言われたのが、ここ! カフェの中を通って行くオフィス。鳥が絡まっている、レトロ物件。憧れていたんです。

**狩野**：まさに、そのままじゃないですか! この辺りなんとなく、新しいビルばかりになって取り付く島がない感じですが、ここはホッとしますね。

**梶浦**：高層ビルが押し寄せて来ていますから。

**阿部**：ほんとですね。こちらへもいずれは・・・

**梶浦**：そうですね。2年って言われているけど、あと5年かな。もったいないです。もったいないといえば、池袋西武の良品計画さんがやっている「もったいない工房」がやった「IKEBUKURO LIVING LOOP」という、イベントにも参加しています。僕たちがやったのは、家具を作ったときのあまりの木を利用して作る、ころころゲーム。これがものすごい人気です。

ガラタを作るわけで、すごく役にたつものができるかって言われたら、おもちゃができる程度のものでいいんですけど、やっぱり自分の作ったものだから、愛着が湧くんですよ。

**阿部**：僕が作ったもの

**梶浦**：そう。僕が作ったもの。

トイレラッピングのお披露目



ヒゲプロ&ツクモルのキュートなスタッフ



ころころゲーム



### 対価・お金・価値観

**梶浦**：ただ、やっぱり、行政の仕事の受注額と一般企業での受注額では、額が違うなと、そこは変えていかないと駄目なところですよ。要するに、予算配分という。結局、いろいろな団体さんが助成金頼みになっている。でも、それはしょうがないんですね。社会がサービスはタダであるという概念から抜けていないんですから。

**阿部**：ってことは、一般の人たちがそういうことに慣れてしまっているってことですか？

**梶浦**：そうです。

**阿部**：区がやっているものだから、これはタダで持っていいみたいな。

**梶浦**：そうなんです。対価というものに対する概念の違いと言うか、認識みたいなものが薄いんですね。ただ、それはNPOだけじゃなく、公共の仕事もそうです。行政の仕事を受注する際に、やっぱり、いろいろ弊害がありますよね。

**狩野**：ありますよね。

**阿部**：狩野さんもそう思います？

**狩野**：もちろん。NPOとしては、新しい価値を創出するのに助成金を使うことは、ある意味当然のことだと思います。ただ、価値を持続的に生み出すために仕組みづくりの努力は必要で、そこでデザインの力というものが必要になって来るんだと思うんです。どうやってわかってもらうかという努力も。行政も市民も、NPOはボランティアだと思っていて、安易に使うことになれちゃっているの、それは変えていかねばならないところですね。

**梶浦**：そうなんです。何処にどう価値を与えるかによって、価値観の違いが出てくるっていうか。そういう部分でデザインが手伝いできるっていう、そういうところも活動している発見だったんです。

**狩野**：面白いですね。ひよんなことから。でもずーっと考えていらっしやうから、紐解けるものと出会ったんでしょね。(次号へ続く)



## コレクティブハウスかんかん森 15周年パーティー盛会!

去る6月24日(日)にコレクティブハウスかんかん森15周年パーティーが開かれました。

かんかん森は、2003年に荒川区にオープンしたCHCが手がけたコレクティブハウス第1号です。

今回は記念イベントとして、都内にある各コレクティブハウスの居住者による「パネルディスカッション」が開かれました。各ハウス共通の課題や話題にとっても盛り上がりしていました。その後、懇親会が開かれ、屋外のテラス席も使うほどたくさんの方が集まり、ハウス間以外にも研究で来た大学生など様々な人との交流を深めました。(編集部O)

